

沙羅の樹文庫だより



ガース・ウィリアムズ作 まつおかきょうこ訳
福音館書店

海がもりあがって輝いている、大室山がどかんと目の前に在る。雄大な冬景色——。2011年も、はや20日、今日は大寒。みなさん、お元気で新年をお過ごしですか。今年も、心にしみる本に出会えますよう。
沙羅の樹文庫

今年はうさぎ年。
ぴよんぴよん跳ねて過ごそうか。
それとも、道草しながら過ごそうか。
いやいややっぱり、身丈にあった過ごし方。
ゆっくりじっくりゆきますか。

☆今年の催し物 (これから8月まで)☆

5月14日～22日 アートフェスティバル開館

- ★絵本で世界を巡る展 ほか
 - ★若葉のころのおはなし会(子ども向け+大人向け)
 - ★ゆったり聴こう日本の昔語り(東北の語り部による)
 - ★講座<本・子ども・世界>—父母、教師、保育士、図書館員、読書ボランティアのための— (予定)
- ♡詳細は、2月のお知らせ♡

7月17日夕

★海の日のおはなし会 スペシャルゲストを迎えて

7月18日 午前

- ★沙羅の樹文庫創立5周年記念
- 1. 子どものためのおはなし会
- 2. 親子でアニメーション 小学生以上希望者 (予定)

8月16日～21日 夏休み開館

★調べ学習コンクール優秀作品に触れてみよう展

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

- ◆2月は通常、19日(土)、20日(日)開館。
 - ◆3月は通常、19日(土)、20日(日)開館
 - ◆4月は通常、16日(土)、17日(日)開館
 - ◆5月は上記、催物情報をご参照ください。
- ※文庫の時間：土曜日は午後2時～5時、日曜日は午前10時～午後3時
※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。
午前10:30～11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》
みんなで勉強会 (おはなし・沙羅)

♡文庫のみんなに、日曜のおはなし会でもきてもらえるよう、楽しくおはなし増やしましょう。

連絡先：沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737

文庫あれこれ◆今月の表紙を飾ったのは、ロングセラーの絵本『しろいうさぎくろいうさぎ』です。この本が初版された時まだ学生で(1965)、後の主人がすぐプレゼントしてくれました。もっとも、この訳者は大学の先輩で、この訳本が出たとき、私は彼女のもとで、図書館員としての実習を積んでいました。そして、彼女のような児童図書館員になるのだと夢を描いていました。◆昨日、主人が文庫にうさぎを送ったよ、と連絡してきました(我ら遠距離別居夫婦)。うさぎの模様を染めた和手ぬぐいの額です。気に入りました。皆さんのお目にとまるでしょうか!◆40過ぎて一昨年結婚した息子のところにこの4日、男の子が生まれました。うさぎ年です。長女の娘がひとまわり上のうさぎで、年女年男揃いました!◆暮れから体調を崩し、あわやと思われていた93歳の母が、ひ孫男子誕生で生き返り、新しく出来た東北新幹線で吹雪の新青森～竜飛岬まで行ってきました。あきれほど凄い人。◆泊まったホテルの下を青函トンネルが走っていて、汽車が通るたびに音が聞こえる仕掛けでした。◆昨年ダイエット成功かと喜んでいたら、またもとに戻ってしまい、うさぎのように飛べません。フットワークを軽くするには、好きでもない運動を始めねばと考えているところです。◆予算がかなり上回り迷っていましたが、絵本の部屋を作ることに決めました。老後どうしよう…。◆今ある絵本の場所は移行して、ここに大人の本をもう少し、見やすく並べられればと考えています。いただいたままになっている本も極力ご覧いただけるようにしたい。でも、これ以上のスペース拡大は無理。今後、厳選して本を入れますので、ご了承ください。◆前月お願いした文集への寄稿、みなさん、お忘れなきようお願いいたします。◆雑誌『子どもと読書』新年号に、秋吉兄妹とパパの読書体験が載っています。ご覧ください。◆文庫スタッフのみなさん、そして、会員のみなさん、楽しいスペースを維持できますよう、よろしく願いいたします。(西村)

吹雪の合間に青空。
海の向こうは、北海道。竜飛崎にて



2010年 わたしのおすすめ (2010年に読んだ本の中から) 中西 景子

	著者・書名・出版社・出版年	ひとこと
1	野呂邦暢 「夕暮の緑の光」 みすず書房 (10.5)	42歳で急逝した作家の随筆集。生涯諫早に住んで、古書店や書物を愛した作家の書くことばは、日々を心穏やかに満たしてくれた。
2	山崎豊子著 「運命の人」(1~4巻) (09.11)	沖縄の基地問題の文書漏洩事件を題材にした話題作。私には主人公が沖縄に住んでからの生活(4巻)が特によかった。
3	佐伯一麦著 「からっぽを充たす」 日本経済新聞 (09.11)	大好きな作家の一人です。本のことや日常のいろいろ、四季の移りなど、何でもなければ気がすがすがしくなる一冊。
4	トールモー・ハウケン著 山口卓文訳 「夜の鳥」「ヨアキム・夜の鳥2」 河出書房新社 (03.6)	子ども達ってこんな風に廻りに気を使いながら生きているのかと、少し能天気なわが身を反省した次第。
5	佐江衆一著 「昭和質店の客」 新潮社 (10.7)	戦争がなければ、希望に満ちた生活が続いていただろう3人。
6	アニカ・トール著 菱木晶子訳 「ステフィとネッリの物語1~4」 新宿書房 (08.5~09.8)	戦争を逃れて疎開した町で、姉妹はたくさんの人々に支えられて成長していく。
7	ロイド・ジョーンズ著 「ミスター・ピップ」 白水社 (09.8)	黒人の村にいるたった一人の白人教師が子供たちにディケンズの「大なる遺産」を読んでもくれるのだが・・・
8	ジャン・モラ著 横川晶子訳 「ジャック・デロシュの日記」 岩崎書店 (07.7)	拒食症の17歳の少女は、大好きな祖母の遺品の中に見つけた日記を読み進む。そこに書かれていたのはナチスの残虐の数々。
9	ヴェルコール著 加藤周一、河野与一訳 「海の沈黙」 岩波文庫 (73.2)	ナチスに侵略されたフランスで、こんな抵抗をした若い娘と祖父。若い娘に心を魅かれながら最前線を希望して去る兵士。
10	後藤正治著 「奇跡の画家」 講談社 (09.2)	ドキュメンタリーです。人の心に届くすばらしい絵が、その絵を手元におきたいという人のもとに集まる。どんな人が絵を買ったのか。

- ♥ほかにたくさんのおすてきな絵本に出会いました。黒人が主人公の本がふえているように思います。
- ・ジャクリン・ウッドソン「かあさんをまつゆゆ」(出稼ぎに出る母さんを待つ黒人の女の子)
 - ・ポール・フライシュマン「ウェズレーの国」(誰とも違う自分だけの文化を作り出した男の子ウェズレーのお話)
 - ・ボブ・ディラン「はじまりの日」(アーサー・ビナードさんの訳の楽しい絵本)

新しく入った本 子どもの本

絵本:『いくつかな?』(谷川俊太郎さく 堀内誠一え くもん出版)『もりのてぶくろ』(八百板洋子ぶん チャルシーナえ 福音館書店)『おすしのさかな』(ひさかたチャイルド)『ひっこしだいさくせん』(たしろちさとさく ほるぷ出版)『しょうとのおのたいじ 日本の昔話』(稲田和子再話 川端健生画 福音館書店)『おばあちゃんのえほうまき』(のむらたかあき作絵 佼成出版社)『だいこんだんめん れんこんざんねん』(加古里子さく 福音館書店)『エイモスさんがかぜをひくと』(フィリップ・ステッド文 エリン・ステッド絵 光村教育図書)『ウィリーとともだち』(アンソニー・ブラウンさく 童話館出版)『ぶどう酒びんのふしぎな旅』(アンデルセン原作 藤城清治影絵 講談社)『死神さんとアヒルさん』(ヴォルフ・エアルブルック作絵 草土文化)『ぼくが一番望むこと』(マリー・ブラッドビー文 クリス・スーンビート絵 新日本出版社)『むこうがわのあのこ』(ジャクリーン・ウッドソン文 E.B. ルイス絵 光村教育図書)

読み物:『すずめのくつした』(セルデンぶん リップマンえ 大日本図書)『おはなしだいどころ』(さいとうしのぶ作絵 PHP 研究所)『ちびねこぐるのぼうけん』(アン・ピートリさく 大社玲子え 福音館書店)『ぬまばあさんのうた』(岡田淳作 理論社)『ギリシア神話 オリュンポスの書・ペルセウスの書・トロイアの書』(齊藤洋文 佐竹美保絵 理論社)※3分冊『白狐魔記一天草の霧』(齊藤洋著 偕成社)『時計坂の家』(高樓方子著 リブリオ出版)『星の牧場』(庄野英二作 理論社)『びんの悪魔』(スティーブンソン作 福音館書店)『11をさがして』(パトリシア・ライリー・ギフ作 文研出版)『ライオンとであった少女』(ドハーティ著 主婦の友社)『へんなかくれんぼ』(岸田衿子詩 のら書店)

大人の本

小説:『神様のカルテ1.2』(夏川草介著 小学館)『伏一鷹作・里見八犬伝』(桜庭一樹著 文藝春秋)『灰色の虹』(貫井徳郎著 新潮社)『月と蟹』(道尾秀介著 文藝春秋)※直木賞受賞『地上の見知らぬ少年』(ル・クレジオ著 河出書房新社)『オーリーヴ・キタリッジの生活』(エリザベス・ストラウト著 早川書房)※ピューリッツァ賞受賞『小説のように』(アリス・マンロー著 新潮社)※国際ブッカー賞受賞『無限』(ジョン・バンヴィル著 新潮社)※国際ブッカー賞受賞者『英雄たちの朝-ファージング1』(ジョー・ウォルトン著 創元推理文庫)

エッセイほか:『そうはいかない』(佐野洋子著 小学館)『星のあひびき』(丸谷才一著 集英社)※20世紀を振り返っての丸谷独特の評論

新書ほか:『茶 利休と今をつなぐ』(千宗屋著 新潮新書)『ミラクルガール』(大塚弓子著 無明舎出版)『100歳まで現役で生きる人のシンプルな習慣』(佐藤俊彦著 幻冬舎)『野菜のソムリエ』(日本ベジタブル&フルーツマイスター協会制作 小学館)